

みんなのた場



雄勝地区・立浜

末永 光騎君(9歳 雄勝小3年)
梨乃ちゃん(8歳 雄勝小2年)
莉緒菜ちゃん(3歳)
煌空君(8カ月)

豊かな自然に育まれ、立浜の海を見下ろす高台で、健やかに成長している4人兄妹です。皆仲良く、元気いっぱいの子どもたちです。

長男の光騎君は、代々続く漁師の仕事を継ぎたいという夢を持ち、積極的に仕事の手伝いをしています。「アイスが好き」と話してくれたのは梨乃ちゃんです。将来は地元の人たちから愛されるアイスクリームショップを開きたいと考えています。莉緒菜ちゃんは「プリン



▶ 笑い声の絶えない子どもたちです。

仲良く元気な4人兄妹

セスのようなおしとやかな女の子になりたい」と話し、お兄さん、お姉さんとともに、まだ生まれて間もない煌空君の面倒をよくみてくれます。

ご両親の拓也さん、奈津子さんは「外で遊ぶのが大好きな子どもたちで、とにかく元気です。家の中にもぎやかでいつも明るい雰囲気をお届けしてくれます。優しさや思いやりを持ち、のびのびと育ってほしいです」と4人の成長を楽しみにしています。

文化財(たんぽう) 92

中沢遺跡出土の

角形土器

生涯学習課

牡鹿半島にある中沢遺跡では、発掘調査によって縄文時代前期(今から約6000年)〜5000年前)の大集落が発見されました。その際に、高さ25センチ程の四角い土器が出土し、全国的にも珍しく「角筒状小型土器」と呼ばれています(写真1)。中沢遺跡から出土した円筒形の土器で、上から見ると、四角い形に見えるものもあります(写真2)。こういった形状の土器は、縄文土器ではそれほど珍しくない

のですが、角形の土器となると話は違えます。角形土器は縄文時代早期(約9500年)〜7500年前)の南九州地方からも出

土していますが、時期・地域とも、出土例は稀です。通常、円筒形の土器を製作する際には「輪積み」と呼ばれる技法で粘土の紐を丸く積み上げていきますが、角形土器は板状にした粘土を作り、側面と底面として接合させ、側面の各辺に粘土紐を貼り、補強しています。土器の厚さも指の腹で押さえて薄くし、内

部や外側を磨いて光沢を持たせてあります(液体が浸み出さないようにする目的もあります)。小型であるということは、通常の煮炊きに使用したものではない可能性がありますが、この土器はさらに手の込んだつくりをしており、特殊な用途に用いられた可能性が考えられます。



▲写真1 角筒状小型土器



▶写真2 上から見ると四角い土器



キラッとパチリ

人権擁護委員として法務大臣表彰

新田義雅さんは、平成17年から人権擁護委員として基本的な人権の擁護と自由人権思想の普及高揚に取り組んできました。これまでの活動の功績が認められ、10月17日(月)に法務省で法務大臣から表彰されました。

県立高校の英語教員だった



▶ 法務大臣表彰を受賞した新田義雅さん

桃生町

新田 義雅さん 74歳

中国の満州に生まれ、終戦後に豊里町(現在の登米市)で暮らしました。進学した石巻高校ではソフトテニスの指導役として活動しました。教える子たちを全国大会に導いたほか、スポーツを通して喜びや悔しさを分かち合う等、心の成長を支えてきました。

新田さんは、「地域のために」との思いで人権擁護委員の活動を始めました。受賞について「身に余る光栄です。これまで指導していただいた多くの方たちに感謝の気持ちでいっぱいです」と感謝の表情で語りました。

平成15年3月に石巻商業高校を最後に教員生活にピリオドを打ちましたが、「地域に役立ちたい」との思いから人権擁護委員となりました。その後は、教員経験を生かして子どもの人権擁護に取り組んでいます。とくに平成26年からは石巻人権擁護委員協議会の子ども人権委員会の委員長となり、石巻地方の学校を対象とした人権教室や啓発活動を通して、思いやりの気持ちを広めています。

新田さんは「震災後は自分の命を大切にすることが増え、強く持つ子どもが増えました」と子どもたちの変化に触れた上で「今後も意識の啓発や高揚に努め、地域のために活動していきたいです」と語っていました。

◆投稿募集

皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのお話をお寄せください。

テーマ 「ありがとう」

日常生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。

字数 400字以内

投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールで秘書広報課あて

にお送りください。掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。

注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいたもの全てを掲載できるものではありません。また、字数等の関係で内容を調整させていただくことがあります。

☎ 秘書広報課(内線4784) 〒986-8501(住所不要)

✉ ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

まちの話題

雄勝地区



10月15日(土)
オーリングハウス

郷土の偉人・ 高橋英吉の足跡を紹介

石巻市に生まれ育ち、31歳でガダルカナル島で戦死した天才彫刻家、高橋英吉に関する講演会が開かれました。雄勝町出身の遠藤光行さんを講師に迎え、時代に翻弄されながらも夢を追い続けた英吉の人生を、写真や資料を用いて参加者全員で振り返りました。現在、英吉の作品は宮城県美術館等に保管されていますが、市の複合文化施設完成後、常設展示される予定です。

河北地区



10月30日(日)
情報プラザ
河北総合センター「ビッグバン」

地域の産業と 文化が満開

河北地区の秋を彩る「フェスティバル・イン・かほく」が10月30日(日)から11月3日(木・祝)にかけて行われました。このうち産業まつりでは、地元の農林水産物や商工品が一堂に並び、人気のビンゴ大会は、子どもからお年寄りまでたくさんの人が参加して大いに盛り上がりました。また、「人・心・絆」をテーマにした文化祭は作品展示やステージ発表等の多彩な催しで地域の交流の輪を広げました。

桃生地区



11月5日(土)、6日(日)
桃生公民館

心をこめた作品が 一堂に

桃生地区の小学生から年配者まで多くの人々の作品が並ぶ「平成28年度桃生地区文化祭」が開かれました。生け花や陶芸、手芸をはじめとした多彩な作品が公民館内の廊下や各部屋いっぱい展示されたほか、小中学生のかわいらしい絵や見事な書道、情緒あふれる俳句、また、ちぎり絵や折り紙等の展示はもちろん、茶道の体験コーナーも人気を集めました。

河南地区



11月5日(土)
遊楽館

地域の文化や 食の魅力を発信

地域の魅力を集めた第25回かなんまつりが開かれ、会場には書、陶芸、手芸品といった趣味の作品展示や、歌と踊りのステージのほか、屋外に並んだテントでは、新米を使った焼きたてのみそおにぎりや新鮮な野菜等が販売されました。開会式では子どもたちによる河南鹿嶋ばやしと須江獅子舞が披露され、訪れた多くの人たちを楽しませました。

牡鹿地区



11月12日(土)
牡鹿中学校体育館

地元の小中学生が共演

牡鹿地区の小中学生たちが歌や踊りを披露する冬の恒例行事「東北電力クリスマスドリーム」が開かれました。鮎川、大原、寄磯の3小学校と牡鹿中学校の児童生徒たちが参加し、元気な歌声や迫力満点の太鼓、鼓笛隊演奏、踊り等を披露しました。会場には保護者をはじめとした地域の皆さんが多数来場し、子どもたちの演舞・演奏に大きな拍手を送っていました。

北上地区



10月13日(木)
北上保健センター

あそびうたで 楽しいひと時

橋浦保育所、吉浜保育所、相川保育所の合同家庭教育学級学習会として、全国各地であそびうたコンサートや保育セミナー等を行っている「あきらちゃんとコロケくん」によるあそびうたコンサートが開かれました。3保育所の親子約100人が参加して、歌や踊り、ペンギンのプール体操、ラーメン体操等で楽しい遊びの時間を過ごし、会場は明るい笑顔と笑い声であふれていました。

石巻地区



10月5日(水)
桜坂高校等

“桜坂タイム”で キャリア教育

キャリア教育を柱に掲げる桜坂高校は、本年度から職業観や地域愛の醸成を目指す「桜坂タイム」を始めました。2年生対象の講演会では、まちづくり活動を行っている若い人たちから、地域の魅力等を語っていただきました。1年生は、中心市街地の約40店を紹介する「まちなかポスタープロジェクト」の一環で44事業所を訪問し、目玉商品や歴史、思い等を聞き取り、ポスター作りのヒント等を学びました。

石巻地区



11月3日(木・祝)
石森萬画館

ゲームで楽しむ 「まंगाの日」

日本漫画家協会等が定めた「まंगाの日」の11月3日、恒例のマンガッタン文化祭が開かれました。今回は「GAME START」をテーマに、「仮面ライダーエグゼイド」にちなんだミニゲームラリーのほか、現在開催中の「ぼのぼの原画展」と連動したキャラクターとの握手・撮影会等の盛りだくさんの企画で、このうち石森キャラクターのキーホルダーを作るコーナーに参加した小学生は「簡単に作れて楽しかったです」と喜んでいました。